

専念寺通信

11月号 (NO.159) <http://sennenji.s296.xrea.com/>



朝晩の気温が低くなり、夜ねむる時にちょっと毛布をかけてやすむようになり、ようやく秋が実感できるようになりました。お元気にお過ごしですか。

☆春と秋

「春秋(しゅんじゅう)」という言葉があるように、このふたつの季節は人が過ごしやすい、穏やかな天候の季節です。けれど最近、春はとても短くなりました。今年の春は梅の開花が遅く、桜の咲くころにまだ梅の花がみられました。春のうららを感じる時期はあっという間に過ぎ、強い日差しの初夏が始まりました。秋はなかなか訪れず、高い気温と台風被害の日々に悩まされる10月でした。11月、ようやく秋らしい日々が始まりましたが、今年の秋はどのような気候でしょうか。日本の四季の長さが同じでなくなって来ているようです。夏と冬が長くなり、春と秋は短くなりました。また、かつて日本にはなかった竜巻被害もあり、10月末まで台風がこの列島を襲いました。海水の温度の上昇と関係があるのだとの報道もあります。気候の変動はなによりそこに生きる人間の食物の収穫に関係してきます。既に多くを輸入に頼っている私たちの国は、食糧自給率を最初から考え直す必要があるのではと思えます。気候変動をきっかけに、自分たちの口にするものを自分たちで作る、という基本的なところにたちかえれたらと思います。

☆政治家と企業と個人

原子力発電所の事故のあと、汚染水の処理をめぐって、それが実は漏れ出しているのではないかと、海に、土に出ているのではないかと報道がなされています。専門家のチームができ、調査の結果が発表されます。責任はもっぱら東京電力にあるのだ、とする意見と、いや原子力行政を進めたのは政府なのだから、政府が責任の一端を背負うべきだ、とする意見もあります。第三者委員会、という言葉も耳にします。さて、

人間が何か事業を始めて、それによって利益があがるとして、そこから出た不具合を、人は正確に正直に報告するでしょうか。また、「政策」として大がかりな計画をたて、大きなお金を動かして数十年かけてきたこの国のトップの人たちは、不具合ははっきりしたとして、それを即座に認め、改善する努力をするでしょうか。冷静に情報を集め、そのどこがどのように間違っているかを判断できるのは、実は、このふたつの位置にはいない人たちです。普通の国民、私たちです。耳に入る報道をひとつひとつ自分で聞き分けていきましょう。人と話す機会があったら意見を交わしましょう。正確なことを可能な限り探しましょう。すぐに「行動」できなくとも心の中で確認しておきましょう。一番いけないのは、諦めることです。または人の言葉を鵜呑みすることです。エライ人の言葉が正しいとは限りません。自分の頭で考え、経験のある方はとっさの勘で察知しましょう。私たちはお互いに助けあって私たちを救う工夫をしなければならぬ時期に来ていると思われまふ。写真は、ぎんなんをおひさまにあてているところです。檀家さまに恒例の「お守り銀杏」を差し上げるため準備しております。皆さま、お風邪をひかぬようご自愛ください。





平成 2 5 年 1 1 月 1 日

大黒